

G-CITY 戦略

(新・北九州学術研究都市戦略)

G-CITY戦略は、北九州学術研究都市開設からこれまでの24年間を「創成期」、「成長期」と捉え、これからを「発展期」として、大学の「知」と先端産業の「技術」が融合し、連続して新たなイノベーションを創出していくために必要な産学連携の機能やシステム、周辺エリアを含むまち全体の魅力向上など総合的な見地から、今後の取組みの方向性を示すものです。

※「G-CITY」=GREEN(グリーン・トランスフォーメーション)/GLOBAL(世界中)/GRID(つながる)/GAKKEN(学研)

1 稼げる



施策案

- 重点分野(半導体・次世代自動車等)への集中投資
- 国内外から資金と人材を呼びこむ世界トップレベルの研究者の招聘
- 文理融合リベラル・アーツ教育

2 つながる



施策案

- 新たな産学連携施設や半導体をはじめ研究施設の整備、大学設備の共有化
- 産業界のニーズと大学の研究の橋渡しを担う専門人材の登用
- FAISが行っている産学連携についての事業手法、経営手法の大幅な見直し

3 集まる



施策案

- 民間による開発も含めた産業用地創出の検討
- 半導体など先端企業・研究機関の戦略的な誘致

4 魅力あふれる



施策案

- 学術研究都市全体のまちづくりを担うアーバンデザインセンターの創設
- 自動運転など先端技術の社会実装

5 世界を巻き込む



施策案

- キャンパスの公用語を日本語と英語とするなど、国境を越えて学べる環境づくり
- 多言語ホームページの充実や国際学会・展示会の誘致など海外への情報発信強化

国や県・民間企業との協働

- 特区制度の活用など、規制緩和、税制等の国や県に対する積極的な提案
- 民間投資や民間活力の導入(PFI・PPP)などマネタイズを徹底した運営



北九州学術研究都市

北九州学術研究都市は、2001年に開設された「アジアに開かれた学術研究拠点」です。新産業の創出や技術の高度化を目指し、理工系の大学・研究機関・企業が、国内で唯一、同一キャンパスに集まっています。現在は、4大学、13研究機関、57企業に約3,500人が集い、「環境」や「情報」を中心に、活発な教育・研究が行われています。

● 知の集積(令和7年7月時点)

4大学 13研究機関

57企業

学生・教員・企業

約**3,500名**

● 周辺人口の増加

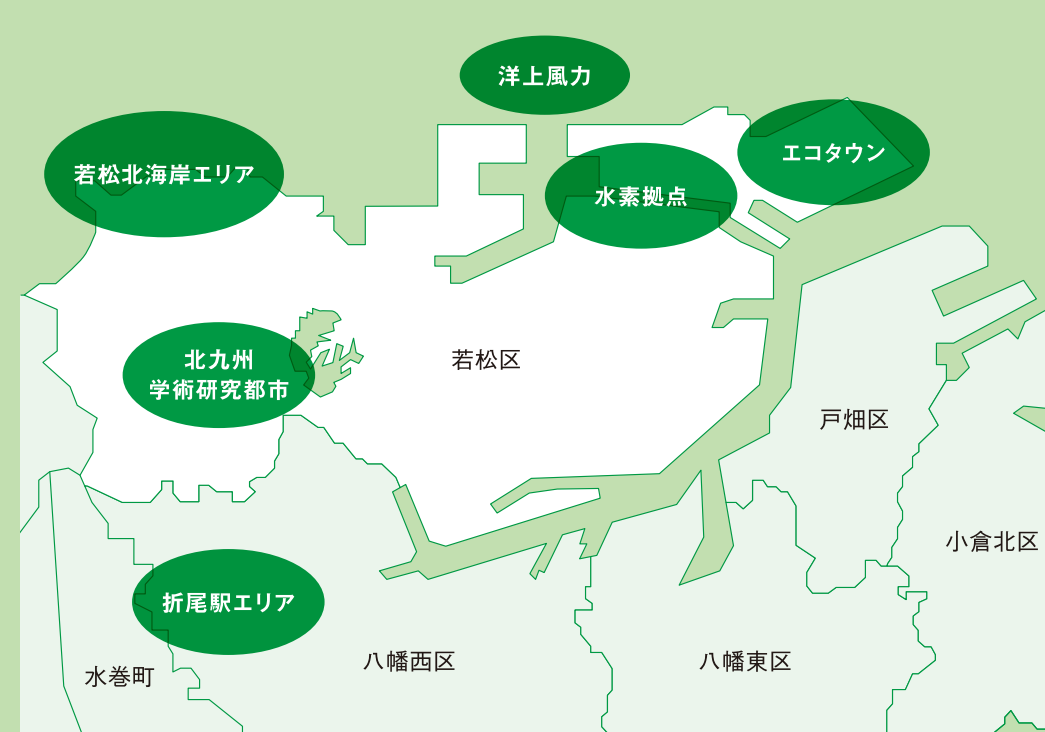
H13年 約1,400人

↓

R6年 約**12,000人**

● G-CITY戦略 エリア図

折尾駅～学術研究都市～若松北海岸エリア



● G-CITY 目指す姿(令和7年2月発表)

学術研究都市の大学が獲得した外部研究資金(国・民間資金の計) **50** 億円 (5年後)

学術研究都市発のスタートアップ起業社数 **30** 社 (10年間)

学術研究都市への誘致件数 **200** 件 (10年間)